



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.6

発行日：令和7年10月 10日

発行者(文責)：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 ー自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通してー
生徒会スローガン：Let's get together!～上中生徒が成長し、楽しめる上中へ～

秋の深まりとともに、上峰町の田畑も豊かな実りの季節を迎えています。地域の方々が汗を流しながら守り続けてこられたこの風景の中で、生徒たちもまた、それぞれの学びの実りを育んでいます。

11月1日(土)は、本校の文化発表会・合唱コンクールが開催されます。音楽室からは合唱コンクールに向け一生懸命に練習する歌声が聞こえてきます。1年生は今年度も地域の方々のご協力のもと「かちやいし」の練習に励んでいます。合唱や展示、学年発表など、一人一人の努力が形となり、仲間とともに創り上げる時間です。「みんなで一つになってつくりあげる喜び」を感じることが、これからの学びにも大きな力になります。成果の裏には、見えない努力や仲間との支え合いがあることを、ぜひ実感してほしいと思います。また、学習面でも年度の後半に入り、日々の授業での主体的な学びが問われる時期となりました。自ら考え、意見を交わし、協働して課題を解決する力を育てていくことが、これからの社会を生きる上で欠かせません。

地域や保護者の皆様には、日頃より温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今後も学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長を支えていきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

朝の「読み聞かせ」への感謝

10月6日(月)～9日(木)までの4日間、地域の皆様による朝の「読み聞かせ」が、子どもたちに豊かな時間を届けてくださいました。温かな声で語られる物語に、生徒たちは心を落ち着かせ、想像の世界を広げていたようです。どの学年、どのクラスの生徒も自然と耳を傾け、絵本の挿絵を見ようと目を凝らしていました。



読み聞かせは、言葉のリズムや表現の豊かさを感じ取る力を育てるだけでなく、人の気持ちを想像する「共感力」や、最後まで話を聞く「集中力」を高める効果があります。生徒たちの心に届く、素晴らしい本を選んでいただき、忙しい朝の時間に、子どもたちの成長を願って活動して下さる地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還について

これからの時代に求められる力は、知識を身につけるだけでなく、自ら考え、仲間と協力しながら課題を解決していく力です。そのため本校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた学習活動を目指し、その二つの学びの往還を大切にしています。「個別最適な学び」とは、一人一人の興味や理解度に応じて学ぶことです。例えば、タブレット端末を活用して自分のペースで調べたり、復習したりすることで、基礎から応用まで力をつけることができます。一方、「協働的な学び」は、友達と意見を出し合い、考えを深め合う学びです。異なる考えにふれることで、視野が広がり、他者を尊重する態度も育まれます。本校では、この二つを行き来する授業スタイルを進めています。自分で調べ、考えたことを友達と共有し、再び自分の考えを練り直す——この「往還」が学びの質を高めています。

教師は、生徒一人一人のつまづきや成長を見取りながら支援し、安心して挑戦できる学びの場をつくっています。もちろん教師が説明する場面もありますが、生徒たちが思考する時間をできるだけ多く設定しています。学びの主役は生徒です。ご家庭でも、お子さまが学校での学びを語りたくなるような温かい関わりをお願いいたします。

学校生活向上委員会

～自分たちの課題を自分たちで話し合い、解決する力～

本校では、生徒が学校生活の中で感じた課題を自分たちで話し合い、よりよい学校づくりにつなげる取組を進めています。その中心となるのが「学校生活向上委員会」です。ここでは、生徒が主体となって現状を見直し、改善策を考え、実行するまでの一連のプロセスを自分たちの手で進めています。例えば、最近問題となった「クレンザーの使い方」もその一つです。教員が指示や管理をするのではなく、生徒自身が「なぜ適切に使えないのか」「どんな工夫をすればよいか」を考え、まず各クラスで話し合いました。その結果をもとに、美化委員会で方針をまとめ、使用ルールや管理の仕方について改善しました。こうした取り組みは、単にクレンザーの使い方を見直すだけでなく、「自分たちの学校を自分たちでより良くする」という意識を高める大切な学びの機会になります。教師がすべてを管理しなくても、生徒は自分たちで考え、判断し、行動する力を十分に持っています。その力を信じて任せることが、真の主体性を育てる第一歩です。自分たちの意見が学校を動かす経験を通して、生徒たちは責任を持って行動することの大切さを学び、自信を深めています。これからも学校生活向上委員会を中心に、生徒が自ら課題を見つけ、仲間と協力して解決していく活動を続けていきます。主体的に考え、行動できる上中生の姿こそ、これからの時代に求められる力の表れです。

ボランティア活動

10月5日(日)に上峰小学校の体育大会が行われました。児童の皆さんが元気に楽しそうに競技に取り組まれる様子に参観させていただいた私も元気をいただきました。その日、本校の1年生18名がボランティアとして参加していました。綱引き後の綱の後片付けとテントの片付けを手伝ったようです。きびきびと動く18名の姿にたくましさや頼もしさを感じました。参加した18名の皆さん、ありがとうございました。また、12日(日)に行われる予定の町民大運動会でも2年生(18名)、3年生(9名)がボランティアとして参加します。このようなボランティア活動を通して、生徒たちは「人の役に立つ喜び」を実感することができます。活動を重ね、地域の皆さまから声をかけていただくことで自信を深めていきます。地域に貢献することは、人とのつながりを実感し、自分を成長させる大切な機会です。これからも地域の力になれることを積極的に行っていくと思いますので、何かあればお声掛けください。今後、生徒会役員を中心に、小学校での挨拶運動を計画しているようです。

たすき

襷をつないだ駅伝大会

10月3日(金)小雨の降る中、吉野ヶ里公園にて神埼・三養基地区駅伝大会が開催されました。本校は、男子2チーム、女子1チームが参加しました。駅伝大会に出場するにあたり、全校生徒に希望を募ったところ、多くの生徒たちが希望していました。そこで、校内予選会が行われ代表が決定しました。学校代表となった生徒たちは、放課後熱心に励み本番に臨みました。駅伝は、単に速さを競うだけのスポーツではありません。走者一人一人が、自分の区間を懸命に走り抜き、次の走者に思いを託して襷をつなぎます。本校の代表として出場した生徒たちも、「最後まであきらめずに走る姿」「仲間を信じて襷を託す心」を見せてくれました。惜しくも県大会出場には届きませんでしたが、走ることを通して「人と人とのつながりの尊さ」を伝えてくれました。また、チームをサポートし全力で応援するメンバーの姿に他の学校の先生方が感心されていました。選手の皆さん、ありがとうございました。そして、駅伝にチャレンジしようと集まった生徒の皆さんの心意気に拍手を送ります。

